

認知症を正しく知ろう

～認知症のかたとその家族を支えるために～

健康福祉課地域包括支援センター ☎ 25 1182



高齢化が進むに伴い、認知症の人も増加傾向にあり、2025年には認知症の高齢者は470万人になると予想されています。(図1)

認知症ってどんな病気？

認知症は脳の細胞が死んでしまったり、働きの悪くなったりすることで、生活する上で支障が出てくる状態のことを言います。認知症は誰にでも起こりうる「脳の病気」なのです。

物忘れとはどう違うの？

高齢になると物忘れが出てくることで、認知症と思われるがちですが、物忘れと認知症は違います。物忘れでは日常生活に大きな支障は出ませんが、認知症による物忘れは日常生活に支障が出てきます。(図2)

認知症かな、と思ったら…

家族に気になる症状が現れても、「年のせいだ」「自分の家族が認知症になるなんて…」「病院に行けば本人のプライドを傷つけるかもしれない」などと病院受診をためらうかたも少なくありません。しかし、認知症は早く発見して、正しく診断されること

で、適切な治療が受けられる病気です。早期発見、早期受診、早期治療が非常に重要になってきます。

どういった診察で、治療は行うの？

診察では、問診をはじめ、認知症の要因となる他の病気の有無を調べる検査や画像検査などが行われます。(図3)

何科を受診すればいいの？

認知症の診断は初期ほど難しく、高度な検査機器と熟練した技術を要する検査が必要で、専門の医療機関への受診が不可欠です。認知症の診断は、神経内科・神経科・精神科・心療内科・脳神経外科などがあり、最近では「もの忘れ外来」「認知症疾患医療センター」などもあります。

講演会を開催します！

毎年大盛況の認知症講演会を今年度も開催します。

とき 3月12日(木)午後2時～(約1時間30分)

ところ 鳥羽商工会議所3階

かもめホール

参加費 無料

講師 三重大学医学部附属病院認知症センター

准教授 佐藤 正之 氏

図1 全国認知症高齢者数推計(括弧内は65歳以上人口対比)

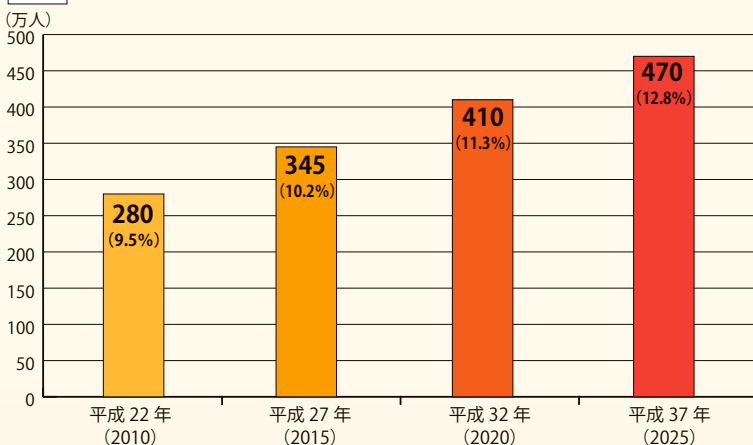


図3

問診 (認知症かどうかを調べる)

本人と家族からこれまでの経過を聞き取ります。本人に自覚がないことも多くありますので、家族や身近な人からの情報が診断のカギになります。

診察

医師による診察では、血圧測定や聴診に加えて、発語、聴力、手足の麻痺や不随意運動の有無、歩行状態などについて調べます。

検査 (原因となっている病気を調べる)

神経心理検査

記憶障害などの程度を調べるため、簡単な質問に答える検査を行います。

画像検査

CTやMRIによって脳の中の状態や変化を調べます。※必要に応じて、血液検査や心電図検査を行うこともあります。

診断

図2

認知症	物忘れの自覚がない	ご飯を食べたことなど体験したこと自体を忘れる	時間や場所、人との関係が分からなくなる
老化による物忘れ	物忘れの自覚はある	ご飯のメニューなど体験の一部を忘れる	時間や場所、人との関係など分かる